

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	475301040
法人名	センコン・リージョナル・サービス株式会社
事業所名	しあわせの郷 連坊グループホーム
所在地 (電話番号)	仙台市若林区連坊小路135 レインボウハウス (電話) 022-216-3750

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴ヶ岡4-2-8 テルウェル仙台ビル 2階
訪問調査日	平成20年1月30日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	RC 造り	4 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	120,000 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙台内科総合クリニック みどりの杜歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは地下鉄五橋駅近くのむにやむにや通りに面した4階建てビルの中であり、1階は事務室・2階はグループホーム・3階はディサービスが併設されている。日頃の行事などでも協力し連携がある。訪問した日に、緊急を要する入居者を職員とディサービスの看護師が病院に付き添うことになりテキパキと対応していた。昨年11月に管理者が代わったばかりということで軌道に乗るまでは戸惑いもあったということだが、既に入居者、職員との信頼関係も築かれている。「むにやむにや通り商店街商興会」の「むにやむにや倶楽部2班」の班長を引き受けており、「かぐや姫バンブークリスマス」の飾り付けを入居者と共に作って飾るなど地域との交流も活発である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の二つの改善事項のうち、相談苦情受付の不備については改善されていた。定期健康診断はまだだが、今年度からは実施したいということなので期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で取り組み、それぞれ手書きをしてもらい管理者がまとめた。自己評価をすることによりこれまでのケアをふり返し、入居者第一に考えることの大切さなどの気づきがあった。外部研修にも積極的に参加していきたいと意欲的である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>第1回の運営推進会議は平成18年11月に開催されたものの、これ以降は開かれること無く今日に至っている。ケアの質の向上や地域密着型の意味からも、今後は入居者や家族はもとより外部のメンバーにも参加してもらい、定期的に開催されるようお願いしたい。早速2月から開催したいということなので期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月一度「しあわせの郷グループホーム新聞」に担当職員のコメントを添え、金銭管理報告と共に郵送している。重要事項説明書に相談苦情受付先の担当者氏名、行政機関その他、第三者委員苦情受付先の電話番号を記載し、玄関に苦情受付箱を設置している。これまで苦情は無いが、家族会を通じて独自のアンケートをとるなど意見を言いやすい工夫をお願いしたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>このホームはビルの2階にあるという立地的な条件から地域の住人が訪ねて来る機会は少ない。近所の99円ショップやスーパーに入居者と一緒にお買い物をしたり、地域の行事に参加するなど積極的に外出することで交流している。近隣にある高校生の2級ヘルパー実習生を毎年受け入れている。今後は園児や学童との交流も考えていきたいとしているので、子ども達を通じて更なる地域との交流が深まりサービスにつながるよう期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念しあわせの3つの約束「心のしあわせ・身体のしあわせ・地域のしあわせ」と共に、「地域に根ざした笑顔の郷」を事業所独自の理念として作り、毎年見直しもされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念にもあるように、職員の笑顔は入居者の笑顔であり入居者の笑顔は職員の笑顔である。笑顔が見られない時は何か問題があるのかもしれないと察するくらい笑いが絶えない。時には方言混じりの会話も飛び出し、明るい雰囲気伝わってきた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも入会しており、地域の行事にも積極的に参加している。高校生を実習生として受け入れるなど地域密着型サービスを重視した交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価をした結果、失敗を恐れることなくやってみようということがあれば積極的にチャレンジしようという管理者の指導の下、改善点に気づき自発的に行動するようになりケアにも活かされるようになった。これから「自分の自己評価」にも目を向けていきたいとしている。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議が開催されたが、その後は中断したままである。早急に開催できるようにしたいということなので期待したい。	○	運営推進会議のメンバーに、入居者・家族等・地域住民・地域包括支援センターや行政の職員等幅広い立場の人たちが参加して、質問・意見・要望を受けて、双方向的な会議になりより良いサービスにつながるようお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの会議や講演、研修等に参加したり、疑問点についての相談にのってもらう事がある。社会資源の活用として、「救急救命講習」が開催された。行政の方から現場に来る機会は少なく、今後は協働関係を継続できるように望みたい。		
に					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1度「しあわせの郷新聞」の他に、担当職員の手紙を添えたホーム独自の「しあわせの郷 グループホーム新聞」と金銭収支報告や請求書、職員の異動のお知らせ等を郵送している。必要に応じて電話を掛けることもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見苦情受付先を明記している。家族からは訪問時に意向を聞いているが、家族の意見・苦情は事業所にとって宝であることから、今後も引き出す努力をお願いしたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年で管理者の交代と複数の職員の離職がありダメージが無かったとは言いかねるが、入居者の心理的不安を最小限に留めるよう管理者・職員の努力している跡が見える。入居者の担当職員制を取ることで職員の離職の不安を少なくする配慮をしたり、馴染みの職員が対応することで信頼関係も築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員のスキルアップを目指し、仙台市が定期的に行っている研修や認知症実践者研修・リーダー研修・栄養士研修等に積極的に参加している。又、日々の体験の中から学んだことを支援に繋げていけるよう努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会や仙台介護ネットワークに入会している。他事業所との集まりがあり、認知症について学ぶ研修をしている。これらで学んだことを日々の支援に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の安心と納得を大切に、体験入居(泊まらずに)をしてもらい、かかわりを持ちいったん自宅に帰っていた。あらかじめ本人・家族と相談して馴染めるかどうか判断してから手続きをし入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるということ意識して接している。料理や分からない言葉の意味を教えてもらうなど共同生活の和を大切に、感謝の言葉を添えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中での何気ない言葉に傾聴し、見逃さないようにしている。着替えや整容時に1対1のコミュニケーションを図ったり、居室で手を取りながらゆっくりと話を聴いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたって現在確立した体制作りをしているところで、ケース記録に生活記録をシンプルに見やすくし、1ヶ月の評価(モニタリング)を総括表に変える工夫をしている。入居者及び家族の意向はもとより職員の意見を積極的に取り入れて作成したいとしているので期待したい。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヶ月ごとにモニタリング総括表で話し合いをし、介護計画見直しについても計画作成様式を変更したうえで見直しをしていくという努力がみえるので、より良いサービスにつながるようお願いしたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日頃から3階にあるデイサービスとの関わりがあり、看護師・スタッフの等の協力体制が出来ている。踊りなどのボランティアの来訪時には一緒に楽しんでいる。通院や外出等柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族が納得の上で、月2回主治医が往診に来訪する。入居者の状態によっては、適切な医療機関をすぐに紹介してもらえる事から良好な関係が築かれている。協力医療機関でもある隣接している歯科医院にも往診してもらえないか検討中である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・職員・医師の意思統一が図られており、指針と同意書が成文化されている。実際、今ターミナル期にある入居者がいるので、看護師の協力を得て医師と相談しながら、全職員が真剣に取り組んでいることを評価したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を尊重し、プライバシーに配慮した支援をしている。個人情報記録等の保管に気をつけている。事業所の従業者に守秘義務が課され、退職後も同様であることが運営規定に記載され職員は理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、買い物や外出等、入居者の喜びになっていることを優先させている。夜間入浴をしたい入居者には希望を叶えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が1週間ごとの献立表を作成しているが、スーパーのチラシを見たり入居者の希望を聴いて変更することがある。お昼のみディサービスの栄養士が作り、盛り付けはホームで行っている。会話を楽しみながらほとんどの入居者は残さずに食べていて、職員はさりげない支援をしていた。あまり誰も見ていないテレビがかけっぱなしになっていたので、工夫をお願いしたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かしている。又、足浴を毎日しており、入居者からの評判が良いとのことである。体調によっては清拭のみの場合もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事前後のテーブル拭き・箸や手拭を並べたり・チラシを利用してのゴミ箱作りなどの役割を作り出せるよう働きかけている。買い物は入居者が楽しみにしていることのひとつで、馴染みのスーパーで焼き芋などのおすそ分けをいただいたりすることがあることも喜びになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みの店に出かけたり、散歩に出かけている。お正月に干支の石造が置いてある神社に初詣に行き、個々の入居者の干支の前で撮ったスナップ写真が、壁に飾ってあり季節感があつた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯の意味で施錠している。昼の対応はセンサーはあるが使用せず、職員が声がけなどで工夫を見守りを徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルや防護用品は用意されているが、定期的な訓練は実施されていない。賞味期限に配慮しながら水・ごはん等の備蓄をしている。	○	消防署員立会いのもと専門的なアドバイスを得たり、地震発生時の事も念頭に置き、夜間も想定した避難訓練が望まれる。近隣の方々の協力を得て、早急の実施をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士の指導により作成している。チェック表に水分摂取状況を記載し、お茶の時間や入浴後の水分補給の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華やかな飾り物は無いが季節感のあるものが程よく飾られ、明るい笑い声と入居者同士の会話や歌が自然と出て、みんなが集える居心地の良い空間となっている。空気の乾燥を緩和する為の加湿器が設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥等の家具が配置されている。思い出の写真や置物が飾られ、日用品が自然におかれた落ち着いた居室になっている。		